

旧新潟税関の役割

珍しい建物に眼が釘づけとなった。それは歴史を感じる洋館のようであった。入り口には「旧新潟税関庁舎」の看板が掲げられている。一見すると洋風建築物に見えるのだが、外壁部などをはじめ至る所に和風建築の技術が用いられている「擬洋風建築」であった。

歴史を紐解けば江戸時代末期の1858（安政5）年、徳川幕府はアメリカ・イギリス・フランス・オランダの5か国と修好通商条約を結んでいる。それに伴い新潟をはじめ横浜・函館・長崎・神戸の5港を開港。ここ新潟は日本海側では最大の港町であり幕府領でもあることから選ばれている。



1869（明治元）年には新潟運上所（後の新潟税関）が完成している。建物は地元新潟の大工が江戸や横浜の洋風建築を参考に見様見真似で造ったもの。それにしても実に立派でユニークな建物となった。以来100年近くもの間、ここで1966（昭和41）年まで実際の業務を追行してきたのだ。現在は新潟市郷土資料館として一般に利用されている。そして国指定重要文化財に指定も。

開港5港当時の税関で唯一現存しているのはこの新潟のみである。私が住む神戸もその一つであったが、1998（平成10）年に3代目庁舎が竣工している。2代目庁舎の外観とホール等を保存・継承した重量感のある立派な税関となっている。しかし昔の面影は全くない。

これらの港に立つとき、ここから大海原を経て異国の地につながっていると思うと、果てしない夢とロマンが広がってくる。船旅もいいかもね。

撮影 2013年春

